

第2回中京独立戦略本部会議 議事概要

本部長	主な意見
大村 秀章	○東日本大震災から一年、日本の復興、日本経済の再生といろんな課題があるが、愛知・名古屋から日本の元気を作っていく、愛知・名古屋が日本を引っ張っていきけるように頑張っていきたい。 ○中京都構想の行政体制の検討に際しては、おのずと法律をどう変えていくかといった技術的、実務的な話も多く出てくる。県と市で、さらに色々な意見をいただきながら詰めていきたい。 ○中京都構想は新しいものを作ることなので、愛知県も廃止をする、名古屋市も廃止をするということは明確であり、それ以外はないと思っている。 ○新たなものを作り、強い、強い大都市にしていく。強力な地域を作り、完全な意味での地方分権を実現したいということが重要であり、その中でどういう形がいいのかという話である。 ○新たなものを作っていくとなると、法律改正までやらないと形が変わっていかない。今の前提のままだでは、これまでの県や政令市、市町村の枠組みの中で地方分権がどこまで進んできたのか、やっぱり掛け声だけかということになってしまう。 ○形を変えていき、本当の地方分権、地方政府を作っていきたい。だから、法律改正も片っ端から要求していく。そういったものをここから発信できればと思っている。

本部長	主な意見
河村 たかし	○本部員に女性を入れるようにと指摘をいただき、今日は残念ながら欠席されましたが、ちゃんとその義務は果たさせていただいた。 ○世界の人が「商売をやるのだったらこの地域でやろう」と思うような、「この地区はどえりゃ面白いぞ」と、「名古屋へ来たらエルサレムのような歴史的な雰囲気もあって面白いところだ」と言ってもらえるように、行政体の形を作っていきたい。法律改正がいるかもしれないが、その前提で話をしないと、限定された話になるので、そういったものを含めて話ができればと思う。 ○歴史的にみると、明治維新の頃から急速に日本を発展させるため、日本を分断するようにやってきた。それぞれ意味があると思うが、私は、尾張名古屋ということに何かフレンドリーな感じがする。 ○道州制とかいろいろ話があるが、私からすると本当に生きとして生ける市民、県民、国民にとって大事なことは、税金が安い、どえらい面白いまちだということ。税金が安いことは中核なスローガンだと思う。 ○商売でもそうだが、飯が食えずに倒産するとなれば、必ず新たに収入を増やすようにする。合併するなり独立採算するなりの対応をする。しかし、日本の政治は、首長も議員も飯が食えるから、どうしても現状維持になってしまう。 ○今までのこの種の会議との違いは、県の廃止になるか市の廃止になるかいずれになるか分からないが、それも視野に入れて議論してもいいということにあると思っている。

本部員	主な意見
安田 文吉	○尾張と三河という国が2つあるが、境川を境にしてどうも仲が良くない、それをどうやっていくか。そうすると、尾張名古屋共和国ができれば、三河岡崎共和国、そういう両方の共和国を作って、連合王国という形が一番スムーズ。イギリスが上手くやっているように。 ○尾張はからくり、山車祭り、三河は地芝居、人形芝居がさかん。それぞれの地域に特徴があるが、これをあわせると民俗芸能の一大集積地になる。 ○人が集まるということであれば、金シャチ横丁が一番のポイントになる。何もおかげ横丁の模倣をするわけじゃなくて、独自性のある、例えば芝居小屋を作って、全国の地芝居の団体を呼んでくるといい。 ○名古屋を語るキーワードは「まあええぎゃあ」。これはずっと言っておりますが、その辺でそこそこでいいということ。それぞれの地元の特色をよく捉えて、どう伸ばしていくか、どう活用していくかが大事。
浜本 英嗣	○女性の住みやすい街というのを公約数的に並べると、犯罪の少ない安全な街、自然災害、交通事故の少ない安全な街、清潔な街、自然のあるきれいな街、子育て・教育のしやすい環境の街といったことになると思うが、これは海外の優秀な技術者の方々にとっても魅力となる概念だと思う。 ○経常収支の黒字を確保するということが日本にとって必要であり、産業の立場から言うと、この中京都を考える時にも1つの視点となるのではないかと思う。 ○そのための要件は、高度な研究機関、優秀な大学、技術あるいは開発の強化といった話になるが、一言で言うと、如何にそうした技術系の人を中心とした優秀な人材を集めるかということになるわけであり、住みやすさということもそのように敷衍すると、産業の立場と地域の将来とに整合性が取れるのではないか。

本部員	主な意見
濱口 道成	○中京都への一元化を進めるとしたら、当面、一番のところは重複行政の徹底排除にあると思うが、さらにクリエイティブなところも含めて、テストランをやるようなことを行った方がいいと思う。 ○総合力について東京よりも上にあるシンガポール等の調査をもう少しやったほうがいいと思う。 ○産業活力、都市基盤・防災、魅力創造・発信、若者・女性支援の4つの柱を連携させるよう、それぞれをつなぐ横軸が必要である。 ○グローバル人材というのは、留学生を沢山呼び込むということもあるが、実は、日本人のグローバル化の方が大事であり、名古屋の若者を土着的な人材でありながら、ちゃんとインターナショナルな感覚を持てるように育てることが重要となる。
中村 捷二	○ものづくり基盤の強化に資する環境整備として、環境・エネルギー問題は、非常に重要なテーマであると思う。 ○人材育成（人づくり）の観点から、愛知県・名古屋市の教育をどうするのだということも取り込んでいただきたい。 ○名古屋市と愛知県との一体的な活動によって、パワーと効率を持つことだと思うが、その上で地方分権ということを目指さないといけない。 ○道州制を含め、地方分権につなげていく道筋みたいなものがこの中で見つけられると思っている。 ○道州制にしても地方分権にしても、税制は避けて通れない。全ての出発点になるのではないか。

本部員	主な意見
鶴田 欣也	○鋳造、鍛造、切削、加工、メッキなど中部経済を牽引する重要産業分野の競争力を支えている中小企業のモノづくり基盤を強化し、これを中京都構想の柱にすることで、さらなる産業活力の発展、成長が図られる。 ○名古屋も昔から芸どころとして有名で、これを世界にもアピールする。踊りとかを学ぶ若手芸能家を育成する養成所を設置・検討したらどうか。名古屋城を中心にした名城公園一帯を整備し、市民も参加でき、文化の香りがする中京都とすることも一つの考えである。 ○中部国際空港に二本目の滑走路を整備して、国内線・国際線の増便を図ることは必須だと思う。 ○都市機能の整備には、人口で5百万くらいの人たちが必要なのではないのだろうか。これは定住人口・昼間人口を考えているが、人が集まってこそ都であり、これこそ真の中京都の目指す姿だと思う。
柘植 康英	○魅力ある企業、工場、研究所、国の機関をこの地に引っ張ってくることは、プロ野球の外人選手を引っ張ってくるようなもので、非連続的な効果が期待できる。活性化の最大の柱として取り上げてもらいたい。 ○人づくりには、①女性支援・仕事と家庭の両立、②グローバルな人材の育成・留学生の受け入れ、③若者の就職・雇用支援、④モノづくりを支える人材の育成という4つの観点がある。 ○進め方を見ると、1年かけて検討する、もう1年かけて深掘りするとあるが、これはもっと早く整理をしなければいけない。 ○中京都創設に向けた考え方という資料が出されているが、具体的なイメージが分かりにくい。組織体制は、どこで検討が行われて、具体的な案がいつ頃出てくるのか。

本部員	主な意見
木村 操	○中小企業の活性化に関しては、セーフティネットの充実とともに、アイデア豊富で独自の技術を持つような中小企業の育成こそが産業活力の向上につながる。 ○柔軟で創造性溢れる経営者や高度な技術を有する職人を養成する人材育成と、彼らが生み出す魅力的な製品や技術などを広く国内外にアピールできる場づくりが非常に重要である。 ○産業活力の面で今後大きな懸念材料として電力不足問題がある。上向きかけている経済に水を差さないか懸念している。 ○名駅地区から栄地区、さらには名古屋城など周辺部も含めた地域の一体開発による、面的な広がりや回遊性のある都心づくりが必要である。 ○国内市場の縮小が懸念される中、中国等アジアからのインバウンド促進による内需拡大が非常に重要で、魅力ある都心づくりと合わせて、観光振興に今まで以上にしっかりとした体制をつくり、取り組んでほしい。
小澤 哲	○知的財産センターを作り、ここに行けば、オンラインの技術・技能、特許など知的財産がどの企業にあるかが全部わかるようなメカニズムを作れないか。 ○60才あるいは65才以上の高い技能を持った人を上手く活用できるよう、人材バンクを設立し、国内外のどの企業もアクセスできるメカニズムができないか。 ○技能専門学校、技能大学を作り、技能をしっかりと身につけるような訓練学校ができないか。また、産業や中小企業育成のベースとなる技能五輪の金メダリストのような専門性を持った人を養成する機関ができないか。 ○海外、特にアジアの大学と当地域の大学との交流を充実し、留学生が当地域で勤め先を見つけ、それが更なる留学生増加につながるメカニズムができないか。 ○陸・海・空のインフラ整備は、当地域はまだまだ不足しているので道路を含めしっかり取り組んでほしい。

本部員	主な意見
奥野 信宏	○日本を引っ張る強い圏域を作るには、広域圏で取り組むことが大事。中部圏で進める場合は、①中部圏が日本を引っ張っていくということ、②道州制への移行を視野に入れること、③名古屋の世界都市としての中枢機能を強化していくこと、という3つの視点が大事。 ○その第1段階となる、ゆるやかな連携については、この地域はグレーター・ナゴヤ・イニシアティブ、三遠南信など先進的な取組をいろいろとやっている。 ○次の段階を考えると、地方自治体の自治との関係が問題になってくるが、この時には、持株会社みたいな感じになってくるのではないかと思う。 ○州に移っていくと、県の機能は州政府に吸収されてしまう。その時に広域都市圏としての名古屋圏の中枢機能を強化していくことが大事だと感じている。
井沢 元彦	○緊急ということ言えば、やはり少子化問題が私は一番重大かと思う。素晴らしい計画も、それをやる人間、日本人がいなくなってしまうのは何もできない。 ○リニアが完成すれば、日本の真ん中にある中京から、東京へも大阪へも代表的な観光地である京都・奈良へも1時間以内で行ける。どう考えても中京が国際ハブ空港の一番の適地。中京が日本のハブ空港になればいいし、なる条件は整っている。 ○例えば先端医療についても、法律改正を働きかけ、各道州単位でできるようにして、中京都がそれを率先してやることになれば、世界中から人が集まってくる。 ○テーマに沿った分科会のようなものを作って議論を煮詰め、また、それで本部会議をやるといった形で中身が詰めやすいような討論体系をとってもらうことを要望する。

本部員	主な意見
浅井 慎平	○都市は可能性だと若い時に思っていた。何者でもない少年、青年が、いつの日か何か自分の志を果たしたい、そういう思いで都市を目指す。日本だけではなく、パリもニューヨークもロンドンもそれぞれそんな人たちが集まって、文芸・文化を創ってきた。 ○都市というものを考える時には、可能性、人間の幸福、人間はどう生きるべきかということにも思いを寄せる必要がある。それらを実現させてくれる空間・時間が都市じゃないだろうかと考えている。 ○我々がよかれと思ってやってきたことが、実は何かを無くしてしまったことをたくさん経験した。もう一度過去を振り返り、そして未来がどうあるべきかを考え直すというのがこの会議ではないかと思う。 ○志は、僕たちの問題というより、次に来る人たちに何を残してあげられるのか、何を作ってあげるのかということだと思う。